ヨーロッパ学入門Ｂ

2025-1060000417-01

村石　麻子、田口　武史

期別：後期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義及び演習　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：
授業時間割：後期：火・５時限　試験時間割：

◎－－－　概要　－－－◎

現代の日本においてヨーロッパについて学ぶ意味とは何か、この根本的問いと向き合い、実習を通して自分なりの学修の展望を得ることが、ヨーロッパ学入門の全般的目標です。
ヨーロッパないし欧米の文化は、近代以降の世界を強力に牽引し、方向付けてきました。我々の価値観や振る舞いも欧米の強い影響下にあることは間違いありません。ところが21世紀の現在、欧米の支配的地位はあきらかに揺らぎつつあります。グローバル化、世界の多極化です。この新しい時代状況に臨んで、我々の現在地を、すなわちヨーロッパが作り上げてきた世界と人間像とはどのようなものなのかを、多様な観点から反省的に捉える必要があるでしょう。
そこで本授業では、（前期とは逆方向に）過去から現代と未来への視線でヨーロッパ文化を洞察します。

◎－－－　授業の進行・方法　－－－◎

最初の２回は前期を振り返りつつ、後期の学習内容を導入するガイダンスに当てられます。
３回目以降の授業では、前半部で、ヨーロッパ文化の根幹をなす物語である「ギリシア・ローマ神話」と「聖書」（［参考書］に挙げた文献などを用いて、各自で情報収集してもらいます）に触れます。語られている内容について紹介しあうとともに、それらの物語を題材として作られた後代の文学・芸術作品、娯楽作品ないしは前期に取り扱った現代的諸問題との連関について検討します。
後半部では、自分の選んだ本（配布する「おすすめ本リスト」から選択）についてプレゼンテーションします。また学期末には、発表内容をレポートにして提出します。レポートにおいては、執筆のマナー、とりわけ引用の作法や、パソコンでの入力、とくに原語を引く際のドイツ語・フランス語入力のしかたを身につけることができるよう、指導を行います。

◎－－－　アクティブ・ラーニング　－－－◎

はい　/　Yes

◎－－－　到達目標　－－－◎

ヨーロッパの人々が古来親しんできたさまざまな物語についての知識を有している(知識・理解)

欠けている知識について情報を集め、簡潔な文章の形で整理することができる(技能)

ヨーロッパ文化に対する学術的興味と探究心を有している(態度・志向性)

自分とは関心のありかを異にする他の学生の発言に耳を傾け、積極的に質問したり意見を述べたりする志向性を有している(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

指定されたテクストを熟読し、未知の事項について情報を補う。得られた知識を整理し、（担当時は発表のかたちで）他者に説明できるようまとめる(120分)

学習事項を振り返り、コメント（ミニッツペーパー）を書く(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

資料をきちんと活用してレポートを書けるか、ヨーロッパ文化の基礎的事項を理解しているかどうかを中心に、到達目標に照らして評価します。
発表２割、授業の参加度＝発言・質問・コメント（ミニッツペーパー）など３割、レポート５割を目安として、総合的に評価します。

＊この授業は定期試験を実施しないため、再試験を受験することはできません。」

◎－－－　テキスト　－－－◎

『旧約聖書・創世記』（改版）関根正雄訳、
岩波書店、1967年

◎－－－　参考書　－－－◎

●ブルフィンチ『ギリシア・ローマ神話』
野上弥生子訳、岩波文庫、1978年
ISBN：4003222512
●庄子大亮『世界の見方が変わる
ギリシア・ローマ神話』
河出書房新社、2022年
ISBN：4309228453
●『聖書　新共同訳NI53』
日本聖書協会、1996年
ISBN：4820212117
※その他、授業中に適宜指示します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

＊授業内での考察や意見交換・議論を重視します。共に授業を作り上げる姿勢を期待しています。
＊入念な予習とコンスタントな出席が必須です。
＊本授業ではカードリーダーの記録に基づいて出席管理します。学生証をカードリーダーにかざし忘れた場合は，必ずその授業の直後までに申し出てください。
＊当科目は定期試験を行わないので、再試験を受験することはできません。

◎－－－　授業計画　－－－◎

第１回
シラバスの説明およびガイダンス：
発表のしかた・レポートの書き方
（スタートアップ授業）（田口・村石）
第２回
ガイダンス：レポートとレジュメの書き方
（田口・村石）
第３回～第15回
発表と討論（田口・村石）
第15回　授業アンケートFURIKAの実施

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/qo8dgubgb5xig1z02mmbqq76fpbbbaq6)

ヨーロッパ言語文化概論Ｂ

2025-1050000619-01

堺　雅志

期別：後期　単位数：2　開講年次：３　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：中級　試験実施：有り
授業時間割：後期：水・２時限　試験時間割：2026/01/15　６時限

◎－－－　概要　－－－◎

ライン河の言語文化
　ライン河を主人公に据え，ドイツ語とフランス語の対立，影響，共存の関係を地理的，歴史的に考察します。その際，源流を持つスイス，河口域のネーデルラントも考察対象とします。
　第一に，古代ローマとガリアとゲルマンの関係から，ドイツ語圏とフランス語圏に分かれれてゆくさまを眺め，第二に，ライン河に纏わる伝説の伝播を概観します。第三にアルザス（エルザス）地方を例に，近世から現代までの「言語戦争」のありさまを文学作品なども参照しながら検証します。そして最後にドイツ語とフランス語が共存する現在の状況について考えてゆきます。
　ライン河を言語的に辿ることを通じて，独仏両文化に受講者自身にとっての「橋」を渡してみましょう。

◎－－－　授業の進行・方法　－－－◎

　授業は原則として，講義形式で行われますが，各回授業後半にグループ討議を行い，グループごとに議事録（ミニッツペーパー）を提出してもらいます。

◎－－－　アクティブ・ラーニング　－－－◎

はい　/　Yes

◎－－－　到達目標　－－－◎

①ヨーロッパの言語の特質およびその文化的背景に関して幅広い知識をうる。(知識・理解)

②言語論において用いられる基礎的な専門用語に関する知識をうる。(知識・理解)

③ヨーロッパの言語論をふまえて，言語をめぐるさまざまな現象について考えをまとめることができる。(技能)

④ヨーロッパの言語的特徴やその文化的背景に対する興味関心を持つ。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

復習：講義後にノート及び配布プリントを読みかえして言語論の歴史的な流れを把握し，それぞれの時代を特徴づける事象や言語現象に関する基礎知識を確実に身につける。(90分)

予習：それをふまえて指示された言語現象・社会現象について自分の意見をまとめて提出できるようにする。(90分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

ミニッツペーパー，トピック毎の小レポート50%。
ヨーロッパの言語の特質，文化的背景に関する知識が定着しているか（①②）を評価基準とします。
定期試験50%。
言語論において用いられる専門用語を正しく使用し，言語をめぐる現象について考えをまとめることができているか（③④）を評価基準とします。

◎－－－　テキスト　－－－◎

適宜自作プリントを配布します。

◎－－－　参考書　－－－◎

加藤雅彦『ライン河』，岩波新書，1999年。　ISBN 978-4004306399
ウージェーヌ・フィリップス『アルザスの言語戦争』，白水社，1994年。　ISBN 978-4560080771

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

ドイツ語学科，フランス語学科両学科学生の受講を歓迎します。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1　オリエンテーション（スタートアップ授業）
2　ライン河源流のはなし
3　古代ローマとガリアとゲルマン
4　ライン河をめぐる伝説
5　ニーベルンゲン
6　ローレライ
7　アルザスとエルザス
8　ライン河とルネサンス
9　ナポレオンとライン河
10　ユーゴ『ライン河幻想紀行』
11　ドーデ『最後の授業』
12　二十世紀の言語戦争
13　ジンメル『橋と扉』
14　現在のライン河
15　これからのライン河–討論とまとめ，授業アンケートFURIKAの実施

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/50c7u2a45vm5bfoacj749merc15ql4n7)

フランス語学概論Ｂ

2025-1060000531-01

川島　浩一郎

期別：後期　単位数：2　開講年次：３　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：中級　試験実施：有り
授業時間割：後期：水・２時限　試験時間割：2026/01/23　５時限

◎－－－　概要　－－－◎

フランス語学とは、フランス語を対象とした言語学のことを指します。言語学とは、言葉を研究の対象とし、その仕組み、法則性を明らかにしていく学問の一分野です。本講義はフランス語を題材に、言語学という学問分野を体系的に学ひ ます。よりよい理解のためフランス語だけでなく日本語についても取り上け ます。基本的に講義形式で進行しますが、受講者が自分自身で考えることを重視するため、発言や個人あるいはグループでの口頭発表を随時求めます。以上を通して、事象を観察する・問題を発見する・法則性を見出す、という言語研究の基本的な姿勢を身に付けます。

【科目の位置づけ】
主に次のことを行うための授業です。
・フランス語学 (フランス語を対象とした言語学) の基本的な考え方を学ぶ
・言語を考察の対象とするという (つまり言語を客観化するという) 姿勢を身につける
・言語学史、言語研究方法、記号論、意味論、語用論、社会言語学の基本を学ぶ
・言語に関する論点を検討し、それについて口頭発表をする

【科目のねらい】
主に次のことを目標とします。
・文法的な知識を言語学の理解に活用できる
・授業で学習したフランス語学の基本概念を説明することができる
・適切な手順をふまえて口頭発表をすることができる
・口頭発表に積極的に取り組むことができる

◎－－－　授業の進行・方法　－－－◎

・講義形式で進行する
・ただし発言や個人あるいはグループでの口頭発表を随時求める
・自分で考えた (言語に関する) 論点について口頭発表を行う

◎－－－　アクティブ・ラーニング　－－－◎

はい　/　Yes

◎－－－　到達目標　－－－◎

文法的な知識を言語学の理解に活用て きる。(知識・理解)

授業て 学習したフランス語学の基本概念を説明することか て きる。(知識・理解)

適切な手順をふまえて口頭発表をすることか て きる。(技能)

口頭発表に積極的に取り組むことか て きる。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習：すでに授業で学習したことを確認し、問題意識を明確にしておいてください。宿題や口頭発表の準備がある場合は、それを行ってください。(90分)

復習：その回の授業内容が理解できているかを確認し、疑問があれば、次回の授業で質問できるように準備してください。(90分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

(1) 評価基準
文法的な知識を言語学の理解に活用できることを評価の基準とする。
授業で学習したフランス語学の基本概念を説明できることを評価の基準とする。
適切な手順をふまえて口頭発表ができることを評価の基準とする。
口頭発表に積極的に取り組めることを評価の基準とする。
(2) 評価方法
定期試験は、フランス語学の基本概念を自分の言葉で、具体例と結びつけて正確に説明できているかどうかを評価の基準とする。
口頭発表は、適切な資料を作成し、定められた発表時間を守って、それぞれの課題にたいする自分の見解と論拠を明確に示していることを評価の基準とする。なお授業時間内での口頭発表をしないことは、大幅な減点の対象となります。
(3) 割合
定期試験の成績60%、口頭発表等の平常点40%で総合的に評価する。

◎－－－　テキスト　－－－◎

教員が配布するプリントによる。

◎－－－　参考書　－－－◎

フランス語学小事典　ISBN 978-4-411-02126-7
フランス語学概論　ISBN 978-4-411-02232-5

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

言語学の授業です。フランス語の運用能力を高めることを目的とする授業ではありません。
口頭発表の内容と日程を第2回目の授業で決めますので、欠席しないようにしてください。
授業の撮影や録音を、原則、禁止します。ノートを適切にとることも、授業の一部分だからです。
講義に出席しなければ、平常点が加算されません。全授業回数の3分の１以上欠席すると単位取得が困難となります。

◎－－－　授業計画　－－－◎

第1回 イントロダクション (スタートアップ授業)
授業週開始までに、スタートアップ授業動画を視聴してください。
第2回 言語研究方法 (1)
第3回 言語研究方法 (2)
第4回 言語学史 (1)
第5回 言語学史 (2)
第6回 記号論 (1)
第7回 記号論 (2)
第8回 意味論 (1)
第9回 意味論 (2)
第10回 意味論 (3)
第11回 意味論 (4)
第12回 語用論 (1)
第13回 語用論 (2)
第14回 社会言語学
第15回【まとめ】＋【授業アンケートFURIKAの実施】

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/5nasp8sf2i45f74vxdxae1w1bqxr26xp)

日本政治外交史

2025-2010000489-01

廣澤　孝之

期別：後期　単位数：2　開講年次：２　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：初級　試験実施：有り
授業時間割：後期：火・３時限　試験時間割：2026/01/15　５時限

◎－－－　概要　－－－◎

　近現代の日本政治外交史について概説する。西洋の衝撃による幕末の開国以来、日本は、殖産興業・富国強兵を合言葉に急速な近代国家の形成を目指し、また日清戦争以来幾たびの対外戦争によって帝国主義国の仲間入りをしてきた。そうした近代国家の歩みが敗戦により挫折したのちは、経済大国を目指してひたすら経済の拡大による豊かな社会の実現を図ろうとしてきた。こうした約150年間の近代日本社会の歩みについてまず理解することが重要である。さらに本格的な人口減少・経済の縮小によって根本的な転換を迫られている現在の観点から改めて歴史を振り返り、日本政治外交の課題について考えることにしたい。
講義の進め方としては、テキストに沿って基礎的概念が理解できるように板書の内容を工夫するなど理解のスピードに配慮して丁寧に授業を進める。復習を効果的に行うためにも講義ノートをしっかりとることが重要である。
　受講生の日本近現代史に関する知識が必ずしも十分ではないことに配慮して、適宜資料等を配布して知識を補いながら、いくつかのトピックスを取り上げて講義を進めていく。日本政治外交の歴史を振り返りながら、現代の日本政治が抱えているさまざまな政策的諸課題を考察することが目標である。

◎－－－　授業の進行・方法　－－－◎

この授業では教科書の内容を深める形で、具体的事例を取り上げながら講義を進めていきます。集中して講義を聞き、要点を適切にノートにとることが必須です。必要に応じて年票を座右に置くなど、受講者も史実の把握に努める必要があります。

◎－－－　アクティブ・ラーニング　－－－◎

いいえ　/　No

◎－－－　到達目標　－－－◎

日本政治外交についての基礎的な知識を習得する。(知識・理解)

日本政治の政策課題について、幅広い視点から考察する能力を養う。(技能)

日本や近隣諸国の地理や歴史に興味を持ち、日本を取り巻く国際環境に関して広く関心を持つ。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習　テキストを熟読し、基本的史実をしっかり把握する。(90分)

復習　講義内容を踏まえて、歴史的展開過程を説明できるように講義ノートを整理する。(90分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

定期試験60％と平常点40％(平常点はレポートやノート提出等による)との総合評価とする。到達目標にある歴史に対する広い関心と政策課題に対する合理的な思考力の有無を基準として平常点を評価し、自分の言葉で日本政治外交について説明するための基礎的知識の定着度を定期試験の重要な評価基準とする。

◎－－－　テキスト　－－－◎

廣澤孝之著『日本政治の政策課題』晃洋書房、2012年、2800円,ISBN978-4-7710-2385-7

◎－－－　参考書　－－－◎

講義のなかで適宜指示する。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1　はじめに{スタートアップ授業}
2　近現代日本政治の歩み(概説)
3　西洋の衝撃と明治維新
4　天皇制国家の形成
5　大正デモクラシー
6　大日本帝国の崩壊
7　戦後改革
8　「55年体制」の成立
9　自民党支配体制
10　保守政治の転換
11　新しい政党システムの模索
12　日米安保体制の転換
13　新しい東アジア地域秩序
14　日本政治の政策課題
15　まとめ　FURIKA実施

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/309okqs3k6h6w5ve0wexy4dtwu39q8dq)

経済統計論「21台以前選必」

2025-3010000134-01

恩田　正行

期別：後期　単位数：4　開講年次：２　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：初級　試験実施：有り
授業時間割：後期：月・３時限, ４時限　試験時間割：2026/01/22　１時限

◎－－－　概要　－－－◎

福岡大学経済学部と他学部の履修生を対象とする経済統計論の講義です。コンピュータを用いたデータの取り扱いと統計的思考は、よき社会人にとって必須の能力・資質となりつつあります。この講義は、大卒人材として求められる最低限の統計リテラシーを履修生に指導し、データプロダクトのよき消費者を育成することを目指します。
この講義は、前半と後半で異なる内容を学びます。授業計画の前半で、履修生はExcelの基本操作とExcelを用いたデータの整理および可視化を学びます。後半で、記述統計、データの加工、GDPや物価指数などの経済統計の基礎知識と活用方法を学びます。
この科目の講義は、講義形式で進めます。

◎－－－　授業の進行・方法　－－－◎

講義形式で実施します。履修生はテキストの出版社が提供する動画を視聴し、知識や技能を講義の前に学びます。講義中、履修生は個票記録を含むデータを用いた課題に取り組み、知識および技能の習熟を目指します。

◎－－－　アクティブ・ラーニング　－－－◎

いいえ　/　No

◎－－－　到達目標　－－－◎

1.　Excelを用いた個票記録を含むデータの整理および可視化を行うことができる。(技能)

2.　経済統計を活用して論文およびレポートを作成することができる。(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

1.　予習：教科書を読む。テキストの出版社が提供する動画を視聴する。(90分)

2.　復習：授業で学んだことを整理する。(90分)

3.　微分積分学に不安のある、または学んだことがない履修生：解析学の知識なくして、近代経済学を理解できません。参考書「解析入門　原書第３版」の全ての問いを解くことをお勧めします。(180分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

評価方法：中間試験(40%)と定期試験(60%)の合計100%で評価します。中間試験は第15回目に実施します。

中間試験で、履修生がどの程度次の二つの到達目標に関する評価対象を修得しているかを測定します。
1.　記述統計、データ可視化、そして経済統計の基礎知識を理解しているか否か
2.　Excelの基本的な使い方を習得できているか否か。

定期試験で、履修生がどの程度次の二つの到達目標に関する評価対象を修得しているかを測定します。
1.　データ可視化の基礎知識を理解しているか否か。
2.　経済統計の基礎知識を理解しているか否か。

◎－－－　テキスト　－－－◎

1.　羽毛田睦土＆できるシリーズ編集部 『できるExcel2021 Office 2021 ＆ Microsoft 365両対応』 インプレス 2022年1,298円 ISBN 9784295013242
2.　立教大学社会情報教育研究センター 『日本の公的統計・統計調査　第三版』 三恵社 2023年2,200円ISBN 9784866937748

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

1.　Bring Your Own Device (BYOD)科目です。講義にノートパソコンを持ってきてください。
2.　【テキスト】1を第2回目講義で使います。
3.　【テキスト】2を第15回目以降の講義で使う予定です。

◎－－－　授業計画　－－－◎

第1回目：イントロダクション（スタートアップ授業）
第2回目：Excelを使ってみよう
第3回目：入力の基本操作をマスターしよう
第4回目：セルの操作方法を覚えよう
第5回目：数式や関数を使ってみよう
第6回目：表の見栄えを整えよう
第7回目：グラフと図形の使い方を学ぼう
第8回目：データ可視化の基礎知識
第9回目：色とデザインの基礎知識
第10回目：ブックとシートの使い方を学ぼう
第11回目：数式と参照を使いこなそう
第12回目：必須の関数を使いこなそう
第13回目：関数で作業効率をアップしよう
第14回目：データ集計をマスターしよう
第15回目：中間試験
第16回目：復習（中間フォローアップ授業）
第17回目：ピボットテーブルを使いこなそう
第18回目：データの分布をとらえる
第19回目：分布の特性
第20回目：変化の記述 (1) 時系列データ、季節性と季節調整
第21回目：変化の記述 (2) 変化率・寄与度、指数、名目と実質
第22回目：統計の役割と統計法規
第23回目：わが国の統計作成のしくみ
第24回目：統計調査の実際
第25回目：人口統計
第26回目：雇用統計
第27回目：生活関連統計
第28回目：物価統計
第29回目：産業・企業統計
第30回目：国民経済計算とまとめ・授業アンケートFURIKAの実施

合計30回の授業を、上記の予定で実施する予定です。しかし、授業の進捗度に応じ、予定を変更する可能性があります。

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/t1nzs74pkahoxza3m56jqqvert88i98b)

人間関係論Ｂ

2025-3020000702-01

渡邉　淳一

期別：後期　　単位数：2　　開講年次：３　　授業の種類：対面授業科目　　授業形態：講義　　実務経験：無し　　科目水準：中級　　試験実施：無し
授業時間割：後期：水・２時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

今日の社会では人間関係の重要性は十分に認識され、カウンセリングやコーチングなどの実務が多くの企業や組織において必要不可欠なものとなっています。「人間関係論B」は「ベンチャー起業論」を補完する関連科目として、社会や組織での人間関係を実務家の方々によるオムニバス形式により、現場に則した観点からケーススタディとして展開していきます。

2000年にノーベル経済学賞を受賞したジェームズ・ジョセフ・ヘックマンの研究を始め、近年の調査や研究で知能指数やペーパーテストなどでは測ることができない非認知能力と呼ばれる能力が、数値化できる認知能力以上に人生の成功に重要な役割を果ていることが明らかになっています。非認知能力にはいくつかのものありますが、その代表的なものとして「意欲を高く集中して取り組む夢中力」があります。

「モチベーション（＝やる気）を上げていくにはどうすれば良いのか」が「人間関係論B」のテーマです。この授業で学ぶことによって、あなたが近い将来社会に出たときに「自分は何を期待されているのか」「どう行動すればよいのか」をスムーズに理解でき、組織を担い頼りにされる人材に成長できると思います。

また、現場経営の実務や業界の現状に関する話しも当然出てきます。卒業後の進路を考える際に役に立ててください。この授業で学んだことを知識として身に付けるだけではなく、実践することで自分の成長につなげていくことを期待しています。

◎－－－　授業の進行・方法　－－－◎

授業は講師の方の講義に引き続き、学生からの質問を含め、講師と学生との間のディスカッションを進めていきます。積極的な授業参加が求められます。

◎－－－　アクティブ・ラーニング　－－－◎

はい　/　Yes

◎－－－　到達目標　－－－◎

社会や組織における人間関係の重要性を認識し、社会や組織において生産性を上げるより良い人間関係を構築する具体的な方法を習得している。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

授業に来られる講師やその方の会社などをホームページなどで調べて、講義の予備知識としてください。それを予習とします。(30分)

毎週、レポートの提出を課します。レポートでは
１）ノートや配付資料を読み直し、講義内容を1,000字から1,500字程度で要約し、
２）それに対する（感想ではなく）自分の意見や考えを1,000字から1,500字程度
にまとめてください。講義の理解を確かにするためです。それを復習とします。(150分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

評価は下記の10回以上の条件を満たしたうえで、レポート（約70%）と授業中の発言・質問など（約30%）で行います。

レポートは到達目標の達成度を測るために、
１）講義の本旨を捉え内容を的確に要約できているか
２）講義の内容に対して（感想ではなく）自分の考え・意見を明瞭に表現できているか
を評価基準とします。

レポートは講義があった週の金曜日の16:30までに、
１）プリントアウトをしたものを文系センター１階のレポートボックスに入れること、それと、２）レポートを指定されたアドレスにメールにファイルを添付して送ること。
両方をおこなって「提出」とみなします。

期限を過ぎたレポートは一切受け付けません。

レポートをメールで送信する場合は、必ず@cisから送ってください。

この講義はその性格上、毎回出席することが求められます。したがって、14回の対面授業のうち出席しかつレポートを提出する回数が10回に満たなければ、出席停止や忌引などの例外的なことがない限り（就活や部活、教育実習による欠席は考慮しません）、成績は不可（60点未満）とします。もちろん、10回以上出席すれば必ず60点以上になるというわけではありません。

欠席や遅刻、授業中の居眠りなどに対しては厳しく対応します。減点の対象になるということです。

レポートや出席に関して一度でも不正行為をした者の成績は不可（60点未満）とします。

定期試験を実施しないため、追試験および再試験を受験することはできません。

◎－－－　テキスト　－－－◎

なし

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

この科目は登録制限科目です。授業を欠席するような人は登録の申し込みをしないでください。

緊張感を持って講義に出席してください。学外の講師の方々が貴重なお時間を割いて福岡大学に来てくださいます。受講生には失礼のない態度を求めます。

この講義用にB５版のノートを用意し、講義を聞く際にはノートをきちんと取るようにしてください。授業中のノートパソコンやタブレット、スマホの使用は禁止します。ノートパソコンを使った学生の理解度は紙とペンを使った学生よりかなり悪かったというさまざまな研究や実験の結果があるからです。この講義でもその傾向は強くあります。

講義に出席の際は学生証を必ずカードリーダーを通してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1.　渡邉淳一・イントロダクション（スタートアップ授業）
「アカデミック・インテグリティ」
2.　9/17　渡邉淳一・前田拓邦（社会保険労務士法人プロフェス代表）
「社会保険労務士の職務」
3.　9/24　渡邉淳一・古賀正博（一般社団法人福岡中小企業経営者協会常務理事）
「出会い力」
4.　10/1　渡邉淳一・松居峻介（ビッグ・フィールド・マネジメント（株）取締役）
「コミュニケーションの幅を広げるソーシャルスタイル思考法」
5.　10/8　渡邉淳一・松居峻介（ビッグ・フィールド・マネジメント（株）取締役）
「自分の持つ力と可能性を引き出すセルフコーチング法」
6.　10/15　渡邉淳一・納富大輔（（有）一柳執行役員営業本部長）
「100年企業と後継者」
7.　10/22　渡邉淳一・筑前りょう太（NPO法人九州プロレス理事長）
「プロレスを通じての不登校児・ニート対策や老人ホーム・障がい者施設慰問」
8.　10/29　渡邉淳一・森五岳（（株）プレミアムロジックス代表取締役）
「JR九州における私の人間関係論」
9.　11/5　渡邉淳一・包行良光（（株）筑水キャニコム取締役社長）
「ものづくりは演歌だ，全てはお客様のために」
10.　11/12　渡邉淳一
「ゲストスピーカー：緒方大助・（株）マイスタヴェルク取締役」
11.　11/19　渡邉淳一
「ゲストスピーカー：鈴木啓之・シロアム教会牧師」
12.　11/26　渡邉淳一・井上泰寿（（有）ウエル総合企画代表取締役社長）
「夢はつかみ取り：いつからだって何だって夢はなくとも起業はできる」
13.　12/3　渡邉淳一・藤本亨（元西部ガスリビング（株）代表取締役社長）
「職場の人間関係」
14.　12/10　渡邉淳一・飯田剛也（（株）タウンズポスト社長）
「公益資本主義」
15.　12/17　渡邉淳一・大野尚（ビッグ・フィールド・マネジメント（株）代表取締役）
「ガバナンスの真実」
最終回の授業でFURIKAを実施します。

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/afymjhikj0irrlscoj92m7jwr4zkhheb)

経営心理学

2025-4020000613-01

大上　麻海

期別：後期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：後期：火・１時限　試験時間割：2026/01/19　２時限

◎－－－　概要　－－－◎

今日，外部環境の変化のスピードはますます速まり，組織は常に変化を余儀なくされています。また，社会の様相が変化していくに従って従業員個人が日々の仕事を行う上でどのように感じ，考え，行動するのかも変化していきます。したがって，組織は外部環境だけでなく組織内部の従業員に，そして従業員の心理にも注意を払い経営をしなければなりません。
この授業では，組織における従業員の心理をどのように捉えれば良いのかについて理論を通じ学びます。その上で，事例を交えながら，また自身の言葉を用いて，理論を説明できるようになることを目指します。さらに，理論の学習を通じ自身が組織の中で働くとはどういうことかについても考えを深めていきます。
この授業はBYOD（Bring Your Own Device）で実施します。何らかのデジタルデバイスを持参してください。

◎－－－　授業の進行・方法　－－－◎

本授業は座学の講義形式で行います。受講生はテキストおよび配付資料で各自予習を行って授業に臨み，授業の中で詳細な説明や具体的な事例を学びます。受講生同士の議論やワーク等は行いませんが，webツールを使って簡易的な意見表明を行うことで教員の提示する議論に参加することができます。

◎－－－　アクティブ・ラーニング　－－－◎

いいえ　/　No

◎－－－　到達目標　－－－◎

経営心理学の基礎的な知識および理論について説明することができる(知識・理解)

経営心理学の知識および理論を用いて，企業の管理手法について問題を発見することができる(技能)

経営心理学の基礎的な知識を用いて，企業の管理手法上の問題について解決策を提案することができる(技能)

授業時間外の学習（予習・復習）を通じて、経営心理学の知識・理論と現実との対応について考察でき、授業外でも学びを深めることができる。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

授業後に企業の問題について調べ，それに対する自身の意見を整理する(90分)

授業前にテキストの指定部分を読み，内容を理解する(90分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

評価基準：到達目標を達成しているかどうか。
評価方法：期末試験（50%），ミニッツ・ペーパーおよび小課題（40%），質問等授業への積極的な参加（10%）を用いて評価する。

◎－－－　テキスト　－－－◎

開本浩矢編著（2019）ベーシック＋（プラス）／組織行動論．中央経済社．2,640円（税込）
ISBN：978-4-502-29561-4

◎－－－　参考書　－－－◎

授業内で適宜提示します

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

・この授業はBYOD（Bring Your Own Device）で実施します。何らかのデジタルデバイスを持参してください。
・期末試験のみでなく，日々の提出物にも大きな点数が配点されています。授業に積極的な姿勢で臨んでください。
・経済ニュース（テレビ、Web、新聞、雑誌等）に日頃から触れ，企業の動きに注目しておいて下さい。
・他の受講者の学習を妨げる行為は禁じます。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1. オリエンテーション(スタートアップ授業)
2. 経営と従業員の心理（1）
3. 経営と人の心理（2）
4. モチベーション（1）
5. モチベーション（2）
6. 組織コミットメント
7. リーダーシップ（1）
8. リーダーシップ（2）
9. 組織的公正
10. キャリア・マネジメント
11. 組織ストレス
12. 組織市民行動
13. ダイバーシティ・マネジメント
14. プロフェッショナル・マネジメント
15. 総括および授業アンケートFURIKA実施

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/hj4afsucb1knps2i26786eadwq144wpc)

流通システム論

2025-4010000601-01

明神　実枝

期別：後期　単位数：2　開講年次：２　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：有り　科目水準：初級　試験実施：有り
授業時間割：後期：金・２時限　試験時間割：2026/01/15　４時限

◎－－－　概要　－－－◎

　皆さんは友達との待ち合わせや時間つぶしにお店に入ったことがありますか。店に入って商品を見てから買うかどうかを決めたことがありますか。値札を見てから商品を買うかどうかを決めたことがありますか。これらの当たり前となっている買い物の光景はいつから当たり前なのでしょうか。これらの光景は、志ある小売経営者によるイノベーションによってもたらされてきました。そのことをまず驚き、そして常識が覆されて買い物の当たり前が刷新されてきた経緯に目を向けたいと思います。
　流通のイノベーションが起きてきたのはそう遠い昔ではなく、呉服屋が百貨店に生まれ変わった約100年前のことです。それ以来、イノベーションが繰り返され、流通システムは大きく進化し続けてきました。さて、皆さんはイノベーターとなった偉大なる小売経営者を何人知っていますか。偉大なる小売経営者はどのようなビジネスモデルを構築しましたか。それらは日本の流通システムをどのように進化させましたか。
　このような関心を持って流通システムを理解することが本授業の狙いです。
　具体的には、日本特有の流通システムを実現した経営者の意思、ビジネスモデルの構築、マーケティング活動などの仕組みについて優れた事例を通して理解し、その際に必要となる理論・概念を身につけます。そうして身についた理論・概念を駆使して近年の課題を探り、さらには解決策の提案までできるようになることを目指します。

　この授業はBYOD（Bring Your Own Device）で実施します。ノートパソコンを持参してください。

＊ドイツの企業でマーケティングに従事した実務経験を活かし、欧米のマーケティングと日本のそれとの違い等も踏まえて講義します。

◎－－－　授業の進行・方法　－－－◎

　授業は、デジタル教科書をもとにした講義形式と、事例に関する議論を行うケース・スタディ方式で行います。ケース・スタディとは、事例に関する議論を通して理論を学ぶ学習方式です。受講者は予習を行って授業に備えます。授業では予習紹介、クイズ、グループでの議論、理解度チェック問題に取り組んで復習します。

　この授業はデジタル教科書を用いて授業を行い、クイズなど教員が作成した内容は教科書上に共有します。

◎－－－　アクティブ・ラーニング　－－－◎

はい　/　Yes

◎－－－　到達目標　－－－◎

流通システムをはじめとする商学の高度な知識を身につけている。(知識・理解)

地域的または国際的な流通システムをはじめとする商学の知識を身につけている。(知識・理解)

流通システムの知識および理論を用いて課題を発見することができる。(技能)

流通システムの知識および理論を用いて解決策を提案することができる。(技能)

授業時間外の学習（予習・復習）を通じて、それらと現実との対応や参考文献などの内容について自主的に考察でき、授業外でも学びを深められる積極性を自ら育むことができる。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習：教科書該当章を読み、重要だと考えるキーワードにマーカーを入れ、そう考えた理由と関連事例を挙げる。(90分)

復習：授業中に示された課題に取り組む。(90分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

評価基準は、上述の到達目標に準じます。
定期試験50%、平常点50%（予習28%、講義中の取り組み・復習22%）で評価します。
尚、講義中の発言・発表、レポートの提出・報告に加点があります。

◎－－－　テキスト　－－－◎

崔相鐵・岸本徹也編著『１からの流通システム』碩学舎、2018年、2,640円、ISBN 9784502261916

＊購入後、以下URL(EDX UniText)からログイン
　https://www.d-text-service.jp/product/
・組織コードは fufoe
・ログインID・パスワードは購入後に設定可

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

この授業はBYOD（Bring Your Own Device）で実施します。ノートパソコンを持参してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1.イントロダクション(スタートアップ授業)：日本における小売業態の生成と進化
2.商業集積
3.呉服系百貨店
4.電鉄系百貨店
5.総合スーパー
6.食品スーパー
7.小売ビジネスの実際
8.コンビニエンス・ストア
9.均一価格店
10.ドラッグストア
11.総合ディスカウントストア
12.家具専門店
13.衣料専門店
14.オンラインモール
15.優秀レポート報告
　授業アンケートFURIKA実施

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/l321a6do7wcib9otafkhorwsau2ut5a9)

会計学総論

2025-4010002113-01

長束　航

期別：後期　単位数：2　開講年次：２　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：初級　試験実施：有り
授業時間割：後期：金・３時限　試験時間割：2026/01/22　３時限

◎－－－　概要　－－－◎

会計とは、ある経済主体に関する経済事象を、主として貨幣額で測定し、それを記録・整理して作成した情報（会計情報）を、当該経済主体の利害関係者に報告する一連の行為をいう。この会計という行為を研究対象とする学問が、会計学である。

会計は、個人という小さい単位から国家という大きい単位まで様々な経済主体によって行われており、それぞれ重要な役割を果たしているが、特に企業において会計が果たしている役割は、どんなに大きく評価してもしすぎることはない。経営意思決定、財産管理、資金調達、人事考課、配当可能額の算定、課税所得の計算など、あらゆる場面で会計情報が利用される。企業会計が、「ビジネスの言語」と称されることがあるのも、あながち大げさな表現というわけではない。

したがって、会計学も企業会計を研究の対象とすることが多く、この講義でも企業会計を中心として取り扱う。なお、企業会計の研究分野は、企業外部の利害関係者（投資家、株主、銀行、税務署など）に対して報告される会計情報を研究対象とする「財務会計論」という分野と、企業内部の利害関係者（経営者など）に対して報告される会計情報を研究対象とする「管理会計論」という分野に大別される。この講義では、やや「財務会計論」の分野を重視した講義を行うが、それは企業会計が、最終的には企業外部の利害関係者向けの内容・形式で会計情報を作成しなければならないという制約のもとで行われているからである。

この講義は、皆さんが会計学を学び始めるにあたって、まず知っておくべき会計学という学問の全体像を理解してもらうためのものである。「財務会計論」、「管理会計論」、「監査論」、「税務会計論」、「経営分析論」その他の会計諸学を専攻するための基礎としてはもちろん、昨今、社会で強く求められるようになってきている「数字の読めるビジネス・パーソン」をめざすための第一歩として、ぜひ履修してほしい。

◎－－－　授業の進行・方法　－－－◎

会計学総論の講義は、各回最初に前回の質問への回答や補足説明を行ったうえで講義を行い、その後提出課題をformsで出してもらう形で進めていく。
提出課題の提出期限は厳守すること。
なお、講義資料（スライド資料）はPDF形式で配信するので、各自事前にプリントアウトしたうえで、授業を受けながら空欄を補充し、さらに必要に応じてメモを書き加えて完成させること。

◎－－－　アクティブ・ラーニング　－－－◎

いいえ　/　No

◎－－－　到達目標　－－－◎

会計の制度的および理論的フレームワークに関する基礎知識を身につけている。(知識・理解)

会計の制度的および理論的フレームワークを理解し、企業会計の現状と課題を説明することができる。(技能)

会計の制度的および理論的フレームワークを理解し、企業会計の課題に対する解決策を説明することができる。(技能)

予習・復習や提出課題への取り組みなどの授業時間外の学習を通じて、会計学に関する関心を高め、授業の内容以上に学びを深めることができる。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

事前に授業管理から配信した講義資料をダウンロードし、各回の学修内容を概観しておくこと。(60分)

授業の内容を復習して上記講義資料にメモ等を加筆し、資料の完成度を高めるとともに、毎回の課題を提出すること（forms）。(120分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

原則として定期試験により評価する。ただし、授業後に提出してもらう課題の取り組み状況により、若干の加点を行うことがある（最大10点程度）。些末な知識の有無よりも、会計学の全体像の把握および会計の理論的フレームワークと制度的フレームワークの理解がなされているかどうかを単位認定の判断基準とする。

◎－－－　テキスト　－－－◎

特に使用しない。

◎－－－　参考書　－－－◎

中央経済社編『新版会計法規集』第12版　中央経済社
ISBN 978-4502393013
広瀬義州『財務会計』第13版　中央経済社／
978-4502163418

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

会計を理解するためには、簿記の知識がある程度必要となる。したがって、「簿記原理」を履修済みであることが望ましい。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1　会計および会計学の意義と種類（スタートアップ授業）
2　財務会計の制度的フレームワーク①
　金融商品取引法会計
3　財務会計の制度的フレームワーク②
　会社法会計
4　財務会計の制度的フレームワーク③
　会計基準
5　財務会計の制度的フレームワーク④
　財務諸表監査制度
6　財務会計の理論的フレームワーク①
　会計公準と概念フレームワーク
7　財務会計の理論的フレームワーク②
　企業会計原則の一般原則
8　財務会計の理論的フレームワーク③
　財務会計の目的と会計情報の質的特性
9　財務会計の理論的フレームワーク④
　資産負債アプローチと収益費用アプローチ
10　財務会計の理論的フレームワーク⑤
　財務諸表の表示と財務諸表分析
11　財務会計の理論的フレームワーク⑥
　資産概念と資産の測定
12　財務会計の理論的フレームワーク⑦
　負債概念と負債の測定／資本概念と資本維持
13　財務会計の理論的フレームワーク⑧
　収益および費用の意義と計上基準
14　財務会計の理論的フレームワーク⑨
　財務報告――財務諸表と非財務情報
15　管理会計の意義
　授業アンケートFURIKAの実施

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/jbdmeo3vb7zmz2c0btkmsvs6d0gpn3ng)

地球環境工学

2025-7060002027-01

鈴木　慎也

期別：後期　　単位数：2　　開講年次：２　　授業の種類：対面授業科目　　授業形態：講義　　実務経験：無し　　科目水準：中級　　試験実施：有り
授業時間割：後期：水・２時限　　試験時間割：後日発表

◎－－－　概要　－－－◎

1980年代以降、「環境」は科学界ばかりか政治・メディアの世界でも大きな話題になっている。二酸化炭素CO2が地球を温めるとか、フロン(クロロフルオロカーボン)が成層圏のオゾンを壊すとか、散乱ごみがマイクロプラスチックとなって海洋を汚染させるとか、国境を越え地球全体に及ぶ現象が議論の的である。一方で極地汚染もまだ残る。埋立地からしみ出た物質が飲み水を汚す、といった話は、今や誰もが知っている。だからこそ、現象を科学的な視点で捉えることが重要である。中でも化学反応の絡む現象として、環境と化学の関わり合いの理解が欠かせない。自然界の壮大な営みが今どのように進み、太古からどう進んできたのをつかんで初めて、人間が自然をどれだけ乱しているのかが分かる。
本講義では色々な環境問題を考える前に、我々を取り囲む気圏・水圏・地殻・土壌・生物圏とは、どのような物質がどうからみ合う場なのかを、科学(化学)的な視点で学習する。その分、日本国内における環境問題やその歴史に対する説明は必ずしも十分とは言えない。1年次に開講される環境工学概論と合わせて環境問題を理解する姿勢が望ましい。なお、大半の学生にとって化学はほぼ初学者に等しいことを前提に、ごく基本的な内容も含めて解説を加えながら講義を行う。
本講義は、講義形式で進め、学習の進捗状況に応じてレポート課題を課し、確認テストを実施する。

◎－－－　授業の進行・方法　－－－◎

授業は教員が作成したスライド資料をもとに講義形式で行う。スライド資料は、事前にmoodle上にアップロードするので、確認すること。適宜確認テストを行い、レポート課題を課す。

◎－－－　アクティブ・ラーニング　－－－◎

いいえ　/　No

◎－－－　到達目標　－－－◎

地球温暖化に代表される環境問題の理解につなげるよう、環境に関わる自然現象を科学的(化学的)に理解できる。(態度・志向性)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

各回の講義に対する確認テストならびに定期試験の結果をもとに環境に関わる自然現象に対する科学的な理解度を評価の基準とする。またレポート課題について、十分なデータを集めたか、そのデータに基づいて自分の見解を明確に記述しているかを評価の基準とする。定期試験(60%)と確認テスト(またはレポート)(40%)で評価する。フィードバックとして確認テスト回収後、解答の解説を行う。

◎－－－　テキスト・参考書　－－－◎

テキスト：「地球環境化学入門　改訂版」J.E.アンドリューズ, P.ブリンブルコム, T.D.ジッケルズ, P.S.リス, B.J.リード著　渡辺正訳　丸善出版株式会社　ISBN-978-4-621-06126-8　2800円+税
参考書：「3R・気候変動検定公式テキスト　一般社団法人持続可能環境センター編著　ミネルヴァ書房　ISBN–978-4-623-09776-0　4000円+税

◎－－－　履修上・受講上の留意点　－－－◎

環境工学概論の単位を取得済みの者が望ましい。

◎－－－　オフィスアワー　－－－◎

FUポータルのオフィスアワーを参照のこと

◎－－－　その他・必要な予備知　－－－◎

特になし

◎－－－　授業計画　－－－◎

１．シラバスの説明およびイントロダクション(スタートアップ授業)
２．変わりゆく地球　地球をまるごと考える・炭素の循環
３．変わりゆく地球　炭素の循環(地球全体のCO2収支)
４．変わりゆく地球　炭素の循環(CO2が増えると何が起こるか)
５．変わりゆく地球　硫黄の循環
６．変わりゆく地球　残留性有機汚染物質(POPs)
７．大気の化学　大気の成り立ち・定常状態と平衡状態
８．大気の化学　自然の営みが生む大気成分・微量気体の化学反応
９．大気の化学　都市の大気汚染
１０．大気の化学　大気汚染と健康・害・汚染物質の退場ルート
１１．大気の化学　成層圏の化学
１２．陸水の化学　元素の溶けやすさ
１３．陸水の化学　陸水のイオン組成を決めるもの
１４．陸水の化学　水の成分と生物活動
１５．陸水の化学　重金属汚染・地下水の汚染、授業アンケートFURIKAの実施

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/z1l7pkk2itsi0ny1ad5z62tu0rvpiy3f)

◎－－－　必修・選択の区分　－－－◎

必修

◎－－－　授業時間外の学習（予習・ 習）　－－－◎

到達目標の達成のため、まず教科書、筆記用具、ノートを必ず持参し、板書の内容を各自ノートに取りまとめておくこと。確認テストに備え教科書・板書ノートをもとに復習しておくこと。(予習60分・復習120分)

◎－－－　JABEEの学習・教育到達目標　－－－◎

Aに該当

情報通信機器概論

2025-7030002410-01

名倉　徹

期別：後期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：有り　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：後期：木・３時限　試験時間割：後日発表

◎－－－　概要　－－－◎

みなさんが毎日使っているスマホは、最先端の電子情報通信技術の集合体です。この講義では、スマホの構造としくみを理解することを通じて、情報通信技術の基礎から最先端までを広範囲にわたって学びます。電子情報工学科のみなさんにとって、スマホは「使って楽しい」デバイスではなくて、「作って楽しい」デバイスであってほしい。本講義を、「消費者」から「生産者」へと視点と立場を移すための足がかりにしてほしいと思います。
企業において研究開発に従事してきた実務経験を活かし、実際に携わった事例等を参考に、講義内容を取捨選択して実践的な講義を行う。

◎－－－　授業の進行・方法　－－－◎

スライドを用いた講義形式とする。毎回の講義最初に紙の資料を配布する。講義では資料に書き込みながら学習することを前提とする。また、配布資料 pdf を講義前に Moodle に載せる。iPad 等で pdf にデジタル的に書き込みながら受講してもよい。毎回講義の最後に小テストを行う。

◎－－－　アクティブ・ラーニング　－－－◎

いいえ　/　No

◎－－－　到達目標　－－－◎

スマホのハードウェアについて理解できる。(知識・理解)

スマホの通信について理解できる。(知識・理解)

スマホのアプリについて理解できる。(知識・理解)

◎－－－　成績評価の基準　－－－◎

1) スマホのハードウェアについて理解できる。(授業計画1～7)
2) スマホの通信について理解できる。(授業計画8～9)
3) スマホのセンサについて理解できる。(授業計画10)
4) スマホのアプリについて理解できる。(授業計画11～14)
5) 宇宙での電子機器の動作について理解できる。 (授業計画15)

◎－－－　テキスト　－－－◎

特に指定はしない。

◎－－－　成績評価の方法　－－－◎

(毎回の小テスト 30%、定期試験 70%) と (定期試験 100%) の大きい方を採用する。

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

毎回講義内容に関する演習と小テストを行うので解答を各自で確認するとともに、講義資料で復習すること。予習・復習各 90 分程度を目安とする。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1. はじめに (スタートアップ授業)
2. 画像のデジタル表現
3. ディスプレイ
4. カメラ
5. 半導体とトランジスタ
6. プロセッサとメモリ
7. バッテリー
8. 通信
9. 暗号通信
10. センサ
11. IoT とクラウド・エッジ
12. OS とアプリとプログラミング言語
13. AI とディープラーニング
14. AI による認識
15. 宇宙へ

(14 回目もしくは 15 回目に授業アンケート FURIKA を実施する)

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/i607cc7is6mwaqgq1ysggc4u1od1whow)

◎－－－　JABEE 学習・教育到達目標　－－－◎

電子工学、通信工学、情報工学の基礎を幅広く理解すること。(JABEE学習・教育到達目標の(SA-2)に対応)

スポーツ内科学

2025-A020000524-01

上原　吉就

期別：後期　単位数：2　開講年次：２　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：有り　科目水準：初級　試験実施：有り
授業時間割：後期：木・１時限　試験時間割：後日発表

◎－－－　概要　－－－◎

生活習慣病とみなされている疾患の理解と運動の効用を理解する。
メタボリックシンドロームを中心に、肥満・肥満症、高血圧、脂質異常症、糖尿病などの幅広い疾患および運動との関連性，あるいは心臓リハビリテーションの際に重要となる心臓疾患を取り上げ、疾患全般の理解と生活習慣改善に必要な知識を身につけること，さらに運動・スポーツとの関連性を理解することを趣旨とする。
また，この授業では医療現場での経験からスポーツにおける急性あるいは慢性の内科的障害や実際の内科診療での臨床経験等を基に展開する。

◎－－－　授業の進行・方法　－－－◎

各授業項目毎にスライドを用いた解説を行い、確認テストを行う。
授業毎に前回授業内容の復習と簡単なまとめを行う。
授業後半では、授業内容の総括と共に各確認テスト提出時の履修学生からの質問やコメントに対しての回答や補足説明を実施する。

◎－－－　アクティブ・ラーニング　－－－◎

いいえ　/　No

◎－－－　到達目標　－－－◎

生活習慣病を理解する　(知識・理解)

メタボリックシンドロームの概念を理解する　(知識・理解)

生活習慣病に対処する生活習慣改善を理解する　(知識・理解)

心臓の構造と機能を理解する　(知識・理解)

内科的慢性スポーツ障害について理解する(知識・理解)

内科的急性スポーツ障害について理解する(知識・理解)

身体活動・運動と疾患および疾患予防を理解する　(知識・理解)

心臓リハビリテーションを理解し実践できる　(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

授業計画をみて、次回の授業範囲の疾患について概説的な内容を予習しておく。(90分)

授業の最初に前授業内容について小テストを不定期で実施するので、各授業終了後は復習しておく。(90分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

成績評価基準・・・・生活習慣病の疫学・病態とそれを予防するための生活習慣改善の方法についての基礎的知識を獲得しているかどうかを評価する。
成績評価の方法・・・・期末試験、平常点（ミニッツペーパーあるいは理解度テストなど）で評価する。ミニッツペーパー（小テスト）あるいは理解度テストを適宜行う。
小テスト、理解度テストにおける質問・コメントには授業内で紹介・回答し適宜フィードバックを行う。
成績は期末試験の割合を80%、平常点の割合を20%程度として総合的に判断する。

◎－－－　テキスト　－－－◎

講義では授業の理解を深めるための資料を配布する。

◎－－－　参考書　－－－◎

健康運動指導士養成講習会テキスト　上，下
公益財団法人　健康・体力づくり事業財団

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

解剖生理学I、IIの単位を修得済みの者が望ましい。

◎－－－　授業計画　－－－◎

①授業概要（スタートアップ授業）
②内科的メディカルチェック
③内科的スポーツ障害（急性）
④突然死、虚血性心疾患
⑤心電図の理解、内科救急、救命処置
⑥内科的スポーツ障害（慢性）
⑦アスリートと貧血
⑧生活習慣病・メタボリックシンドローム
⑨肥満・肥満症
⑩耐糖能異常・糖尿病
⑪脂質異常症・高血圧
⑫運動療法と心臓リハビリテーション
⑬呼吸器疾患、がん（悪性新生物）
⑭認知症、ロコモティブシンドローム
⑮URIKA入力、まとめ、その他

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/bxu4ofxns2ikbi8fromznyif9t0pxx16)

レジャー・レクリエーション総論

2025-A020000611-01

築山　泰典

期別：後期　単位数：2　開講年次：２　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：初級　試験実施：有り
授業時間割：後期：金・３時限　試験時間割：後日発表

◎－－－　概要　－－－◎

「レジャーやレクリエーション」を論じる際、その背景に存在する「自由時間」との関係を考える必要がある。そのため、この言葉の意味はそれぞれの聞き手にとって日常の過ごし方によって異なり、また同じ人であってもライフステージ（幼児期から高齢期に至る６段階）によって変化するものである。必然的に「多様性を持った言葉である」との認識が必要となる。そして、このレジャー・レクリエーション活動の目指すところはそれぞれのライフステージに応じた“よりよい生活（QOL）の向上”であり、“よりよい健康（Wellness）”にあると考える。そのため、ウエルネスという言葉の理解も授業の中に組み込む。
この講座を通じて、レジャー・レクリエーションに関しての知見を深め、それを活かした「自身のライフスタイル向上」を考えてもらいたい。そして、「実践的に人に伝えていくことのできるレクリエーション指導者としての基盤を形成する」ことが本講座の目標となる。その為、講座の中盤では教育・福祉・地域活動それぞれの側面からレクリエーションの役割について具体的に言及し、「レクリエーションを通じた社会貢献の在り方を」考察していく。また、実際の企画運営時、必要となる「リスクマネジメント」に関して言及し、具体的な企画作成を行う。

◎－－－　授業の進行・方法　－－－◎

講義形式での授業展開を主とするが、数回は机上でのグループワークを実施する。
視聴覚教材を活用しながら、考えながら学ぶことを求めることとなる。

◎－－－　アクティブ・ラーニング　－－－◎

はい　/　Yes

◎－－－　到達目標　－－－◎

レクリエーションと関連領域における基礎知識を理解し説明することができる(知識・理解)

レクリエーション支援の在り方を理解し説明することができる(知識・理解)

レクリエーションの支援方法について理解し、説明できる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

各回授業終了時に示される次回授業内容の情報収集等の予習(90分)

授業からの気づきや学びに関する自身での整理(90分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

１．学期末にテストを実施する。
２．受講態度を考慮する。
３．授業時の提出物も評価の対象とする。
原則として、定期試験6割、平常点2割、レポート等2割とする。
尚、試験内容及びレポート内容から、レクリエーションに関する知識及び考え方の定着度合いを測ることとする。
尚、レポート作成に関して、生成AIツールでの出力結果をそのまま提出することは、この実習での到達目標に達することが出来なくなり、剽窃や不正行為と判断することもありますので、注意ください。

◎－－－　テキスト　－－－◎

レクリエーション・インストラクター養成テキスト
「レクリエーション支援の基礎」
(財）日本レクリエーション協会

◎－－－　参考書　－－－◎

特に指定しません。授業内で紹介します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

「レクリエーション・インストラクター」資格取得希望者は、この講義を履修することが望ましい。詳しくは、ガイダンス時に言及するが、スポーツマン（ウーマン）シップに則った受講態度を求める。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１　レクリエーションの概念と目的【スタートアップ授業】
２　レジャーとレクリエーション
３　ウエルネスとレクリエーションⅠ
４　ウエルネスとレクリエーションⅡ
５　教育的側面からのアプローチⅠ
６　教育的側面からのアプローチⅡ
７　福祉的側面からのアプローチⅠ
８　福祉的側面からのアプローチⅡ
９　地域活動としてのレクリエーションⅠ
10　地域活動としてのレクリエーションⅡ
11　プログラムとイベント企画の留意点
12　リスクマネジメント
13　レクリエーション企画演習Ⅰ
14　レクリエーション企画演習Ⅱ
15　まとめ
　　授業アンケートFURIKAの実施

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/bsab0yvpfzt1g7orhvmax8uld7l9ety9)

フランス語ＩＢ「LF1(b)」

2025-SJ00009703-04

川島　浩一郎

期別：後期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：後期：月・４時限, 木・２時限　試験時間割：2026/01/26　５時限

◎－－－　概要　－－－◎

前期「フランス語IA」を引き継いで、コミュニケーションの土台となる、フランス語の文を組み立てる際の決まり、すなわち文法を、体系的に学習する授業です。フランス語を使ったコミュニケーションの実践に必要不可欠となる、基礎的な文法事項を学びます。言語の長期的な学習過程においては、文法を理解し実践できるようになることが必要です。

【内容】具体的には、目的語代名詞、強勢形代名詞、代名動詞、半過去、大過去、疑問詞、関係代名詞、中性代名詞、単純未来、前未来、現在分詞、ジェロンディフ、受動態、条件法、接続法などの文法項目を学びやすい順番で学習します。

【方法】ひとつひとつの規則を、基本的な文を作る練習問題をとおして定着させます。

【目的】フランス語検定４級レベルの能力を１年間で (前期のフランス語IAと後期のフランス語IBでの学習によって) 獲得することを目指します。

【授業形式】授業は、講義形式で文法解説を行ったのち、文法理解を中心とした練習問題に取り組みます。教科書で提供されている練習問題を解くことが中心になりますが、補助的なプリントを用いることもあります。ペアで問題を解いたり、教員に倣って発音練習をしたり、フランス語による一問一答など、インタラクティブ (双方向的) な作業を行うこともあります。積極的な参加を心がけてください。

【注意】なお、このフランス語IBは週に2回授業があります。

◎－－－　授業の進行・方法　－－－◎

●【講義形式による授業】は、教員が準備した講義資料あるいは直接教科書を使用して進行していきます。
●【練習問題】に関しては、文法理解の確認を中心に進めていきます。
● 基本的に、予習や (以前の授業の) 復習がなされていることを前提に授業を進めます。

◎－－－　アクティブ・ラーニング　－－－◎

はい　/　Yes

◎－－－　到達目標　－－－◎

①フランス語の文法・語彙について基礎的な知識を有している。(DP1-1)(知識・理解)

②初歩的なフランス語を理解し、聞き、話し、読み、書くことができる。(DP1-1)(技能)

③正確さを重んじ、外国語の習得のために必要な自主的努力を惜しまない。(DP1-1)(態度・志向性)

④各回の授業で得た知識を自分なりの方法で自分の中に定着させることができる。(DP1-2)(技能)

⑤フランスを中心に諸外国の文化的・社会的背景について基本的な知識を有している。(DP2-2)(知識・理解)

⑥異文化に適応する柔軟性、また自国の文化を発信する積極性を培う。(DP2-2)(態度・志向性)

⑦外国語によるコミュニケーションを通じて、違いを認め合い相互理解を図ることができる。(DP4-2)(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習：テキストのフランス語を書き写し、声に出して読んでください。(45分)

復習：テキストを広げて毎回の授業を振り返り、新たに覚えたことを整理してください。(45分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

本授業は、各到達目標の達成度を基準として、下記の方法と割合により成績評価します。

●平常点（積極的な授業参加・発言・小テストなど)：60%（到達目標②,③,⑤,⑥,⑦）
●定期試験：40%（到達目標①,②,④,⑤）

◎－－－　テキスト　－－－◎

『Voilà -grammaire française de base- ヴワラ！』（著者）伊勢晃、谷口千賀子：早美出版社：2100円（税抜）
ISBN : 978-4860420994

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

●予習および復習がなされていることを前提とした授業です。継続的に出席することが非常に重要です。
●６回以上の欠席は、授業参加の姿勢において、大幅な減点の対象となります。
●授業の録音や録画を原則禁止します。
●定期試験を実施します。

◎－－－　授業計画　－－－◎

01.スタートアップ授業 (動画配信)
授業週開始までに、スタートアップ授業動画を視聴してください。
02.目的語代名詞（１）【11課】
03.目的語代名詞（２）【11課】
04.強勢形代名詞【11課】
05.代名動詞 (1)【12課】
06.代名動詞 (2)【12課】
07.半過去 (1)【13課】
08.半過去 (2)【13課】
09.大過去【13課】
10.疑問詞 (1)【14課】
11.疑問詞 (2)【14課】
12.疑問詞 (3)【14課】
13.関係代名詞 (1)【15課】
14.関係代名詞 (2)【15課】
15.関係代名詞 (3)【15課】
16.前半の【まとめ】(中間フォローアップ授業・動画配信)
17.中性代名詞 (1)【16課】
18.中性代名詞 (2)【16課】
19.単純未来 (1)【17課】
20.単純未来 (2)【17課】
21.前未来【17課】
22.現在分詞【18課】
23.ジェロディフ【18課】
24.受動態 (1)【18課】
25.受動態 (2)【18課】
26.条件法 (1)【19課】
27.条件法 (2)【19課】
28.接続法 (1)【20課】
29.接続法 (2)【20課】
30.【まとめ】＋【授業アンケートFURIKAの実施】

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/sww8udtdk9dqdzy3n2dc05e5h2efzgff)

西洋文学Ｂ（西洋文学探検 II）

2025-S000009432-02

冨重　純子

期別：後期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：後期：月・５時限　試験時間割：2026/01/20　４時限

◎－－－　概要　－－－◎

文学とはことばによる芸術ですが、伝統的に演劇と、演劇ではない、叙事詩などの文学とに分けられます。この講義では、〈ドラマ〉と〈一人称の文学〉という二つの系譜を考え、たどりながら、西洋文学について考えてみることにします。
西洋文学は、聖書やギリシア神話がおおよその出発点であるとすれば、二千年以上の時間的広がりをもち、言語も古代の言語から現代ヨーロッパの諸言語にわたります。また、詩、演劇、小説、批評的・哲学的エッセイ等、さまざまなジャンルがあります。これだけ多岐にわたる「文学」でありながら、そこにはさまざまな結びつきがあって、境界を定めることはできないながら、「西洋文学的なもの」がたしかに存在しているのです。そしてふしぎなことに、それは、現在私たちが鑑賞する映画や舞台、音楽などに引き継がれています。（「テセウスの船」、『ハウルの動く城』、楽曲名の「罪と罰」、バレエ「くるみ割り人形」・・・）
この授業では、さまざまな作品を紹介しながら、西洋文学の世界を描きだすことを目標とします。これはもちろん、大胆で不可能な目標ですが、この広大な世界に分け入っていきましょう。とりあげる作品と結びつきの深い現代の芸術作品に触れていきたいと思います。

◎－－－　授業の進行・方法　－－－◎

授業は基本的に講義形式で行いますが、紹介する作品のシノプシス（梗概）や本文の抜粋を日本語で読むほか、原語でも示すので、部分的には講読形式の授業でもあります。数回、授業の内容を確認したり、理解を深めたりするための小課題を出します。

◎－－－　アクティブ・ラーニング　－－－◎

いいえ　/　No

◎－－－　到達目標　－－－◎

著名な西洋文学の作家と文学作品について知識を有している。(DP1-1)(知識・理解)

文学や思想について、自分のことばで知見を述べることができる。(DP1-1)(技能)

ヨーロッパに関わる世界史の基本的知識を有している。(DP2-1)(知識・理解)

文学や芸術作品を通じて、他者・異文化・異文脈を理解することができる。(DP2-2)(技能)

現代の世界の諸問題についての関心を持ち、積極的に理解しようとする。(DP4-2)(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習：提示された資料を読んでおく。(45分)

復習：授業でわからなかったところを確認し、授業で得られた知見を図書館等で補う。(45分)

ヨーロッパの文学作品を読む。(90分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

各到達目標の達成度を基準として、下記の方法と割合により成績評価します。
平常点（小課題提出、授業での発言）30%
定期試験70%
いずれも、授業でとりあげた作家・作品について、どれだけの知識を有しているか、また自分の頭で理解しているかを問います。

◎－－－　テキスト　－－－◎

ブレヒト『アンティゴネ』谷川道子訳、光文社古典新訳文庫、ISBN : 4334753159

◎－－－　参考書　－－－◎

渡辺京二『私の世界文学案内』ちくま学芸文庫、ISBN : 4480094334

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

授業で触れた作品について、図書館などで手に取ってみるよう心がけてください。文学、音楽、美術など、広くヨーロッパの芸術に触れてみましょう。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1. （スタートアップ授業）授業の進め方と「西洋文学」について
2. 〈ドラマの系譜〉悲劇と喜劇
3. シェークスピアとフランス古典劇
4. 啓蒙と市民の劇
5. ブレヒトの劇
6. 『アンティゴネー』
7. 『アンティゴネー』（つづき）
8. 〈「一人称の文学」の系譜〉　抒情詩
9. ソネットとバラッドのはなし
10. 告白文学の系譜
11. 手紙、日記考
12. 〈小説〉の時代
13. 「小さな」文学のはなし
14. 〈映画〉
15. まとめ　授業アンケートFURIKAの実施

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/gn62chcx2tdks34ynpf3g394ewcgde2u)

福岡大学で考える現代社会（ヨーロッパを知る―その多様性と統一―）

2025-S000009606-16

辻部　大介、堺　雅志、浦上　雅司、西村　道也、藤井　雅人、太記　祐一、田上　響、東原　正明

期別：後期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：有り　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：後期：月・５時限　試験時間割：2026/01/21　５時限

◎―――　概要　―――◎

専門分野を異にする８名の教員(人文学部、法学部、経済学部、理学部、工学部、スポーツ科学部所属の専任教員）が、おのおの１～２回の講義を担当し、地中海世界から北方ヨーロッパ、中央ヨーロッパにおよぶ各地域に、また、地理、歴史、美術、宗教、言語、スポーツ、政治、建築といった諸分野にまたがる、ヨーロッパの社会や文化の諸相を、学生の知的欲求にうったえうるさまざまな個別的事例に基づいて講義します。現代ヨーロッパだけでなく、現代ヨーロッパを作りあげる基盤となった古代、中世、ルネサンスといった過去の時代の社会や文化についてもとりあげていきます。
個々の事象を例示するにあたっては、日本との比較・対照をうながし、日本の社会や文化の現状に対する問いかけを動機づけます。初回（スタートアップ授業）と終回の授業では、統括責任者２名が、各講義の連関および授業全体の意義について受講者それぞれが考察をめぐらすための視点を提供します。
なお、東原の担当回（第12・13回目）においては、在オーストリア日本大使館専門調査員としての実務経験によって得られた、現代オーストリアの諸政治勢力の動向等に関する調査結果を活用した講義が行われます。

◎―――　授業の進行・方法　―――◎

授業は、各教員が作成した講義資料（主としてスライド）をもとに、講義形式で行います。毎回の授業後に、ミニッツペーパーを記入・提出してもらいます。そこで寄せられた感想や質問について、授業冒頭で簡単なフィードバックを行うこともあります。

◎―――　アクティブ・ラーニング　―――◎

いいえ　/　No

◎―――　到達目標　―――◎

ヨーロッパ社会のありようをヒントに今後の日本社会について考えていくための視座を得ようとする志向性を有している。(DP1-2)(態度・志向性)

ヨーロッパについて、地理・歴史・美術・宗教・言語・スポーツ・政治・建築の諸分野にまたがる幅広い知識を獲得している。(DP2-1)(知識・理解)

講義で身につけた知識をもとに、自らの考察を明瞭に記述することができる。(DP4-1)(技能)

◎―――　授業時間外の学習(予習・復習)　―――◎

授業時にとったノートを読み返し、授業内容の要点を頭の中で整理する。キーワードについては、自分の言葉で説明できるようにする。(90分)

よりくわしく知りたい点を書き出し、インターネットや図書館で調べ、わかったことをノートしておく。(90分)

◎―――　成績評価基準および方法　―――◎

平常点（毎回の授業の終わりに記し提出してもらうミニッツペーパーによる）30%、定期試験の成績70%の割合で評価する。平常点において到達目標のうち態度・志向性の到達度を、定期試験において知識・理解および技能の到達度を、それぞれ測る。試験問題および評価基準は、１）８名の講義担当者それぞれの講義内容をどれだけ理解し、具体的な事項をどれだけ知識として定着させたか、２）15回の講義内容全体をふまえて、現代のヨーロッパと日本との関連を内省するための観点をどれだけ獲得できたか、を問うものとする。

◎―――　テキスト　―――◎

使用しない。必要に応じて、各講義担当者が資料を配布（FU_Box内の所定のフォルダにアップロード）する。

◎―――　履修上の留意点　―――◎

配布資料は、FU_Box内に作る共有フォルダに、授業当日の朝までにアップロードします。各自ダウンロード・印刷のうえ授業に臨んでください。

◎―――　授業計画　―――◎

1　シラバスの説明・オリエンテーション（スタートアップ授業）（辻部・堺）
2　ヨーロッパの成り立ち―中世まで―（堺）
3　美術遺産とイタリア（浦上雅司）
4　カトリック教会とイタリア（浦上）
5　バルカン半島の歴史―ビザンツ帝国を中心に（西村道也）
6　バルカン半島の歴史―オスマン帝国とユーゴスラビアを中心に（西村）
7　ドイツの地域生活とスポーツ（藤井雅人）
8　スポーツ強国としてのドイツ（藤井）
9　中世のゴシック建築　フランスの大聖堂を中心に（太記祐一）
10　建築文化のHUBとしての19～20世紀（太記）
11　ヨーロッパにおける生物分類と進化論の発展（田上響）
12　現代オーストリアの政治体制―成立と発展（東原正明）
13　現代オーストリアの政治体制―ナショナリズムの台頭（東原）
14　フランスの旧植民地：アルジェリア（辻部）
15　講義のまとめと展望・授業アンケートFURIKAの実施（辻部・堺）

◎―――　スタートアップ授業　―――◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/2dtddf3238jrbfwlm4hqb923mkxwxyeo)

アジアの文学Ｂ（韓国・朝鮮の文学を知る）

2025-S000009446-02

柳　忠熙

期別：後期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：後期：火・１時限　試験時間割：2026/01/20　４時限

◎－－－　概要　－－－◎

　みなさんは〈韓流〉という言葉をよく耳にしているかもしれません。最近、日本では、K-popやドラマや映画など、さまざまな韓国のコンテンツが紹介され、みなさんにも親しみのあるものになっていると思います。これまでの記憶と経験を思い出しながら、韓国・朝鮮の文学作品と映画の内容を確認し、韓国・朝鮮文化を考える新しい経験をしてみませんか。
　この授業では、日本の隣の国である韓国・朝鮮の文学に関する概略的な知識と理解を得ることを目指します。
　古代から現代にかけての韓国・朝鮮文学の流れを学び、各時期の韓国・朝鮮文学作品の内容と、その作品が置かれた歴史・社会・文化的な背景についての概略的な知識と理解を得ることができます。
　そして、各時期の主な韓国・朝鮮文学テキストと関連映画に触れてみる（原文や日本語翻訳や映画の鑑賞など）ことを通じて、朝鮮半島に生きた人々の社会や歴史の変化を理解し、現在の韓国・朝鮮の歴史・社会・文化の特徴に対する自分なりの観点を持つことになります。

◎－－－　授業の進行・方法　－－－◎

本授業は講義形式で行います。
授業はパワーポイントを利用して前回の授業感想文への教員の答えと本講義の形で進めていく。
映画を鑑賞する場合は、2回にわたって映画を観た上、教員による解説の講義を行う。

◎－－－　アクティブ・ラーニング　－－－◎

いいえ　/　No

◎－－－　到達目標　－－－◎

韓国・朝鮮の文学・社会・歴史についての基礎知識を身につけることができる。(DP1-1)(知識・理解)

文学作品を通じてさまざなな人・社会・文化などを理解することができる。(DP2-1)(知識・理解)

朝鮮半島に生きた人々のあり様を理解することができる。(DP2-2)(知識・理解)

具体的な根拠をもって自分なりの観点を述べることができる。(DP3-1)(態度・志向性)

日韓・日朝関係についての自分なりの観点を得ることができる。(DP4-2)(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

事前に配付するレジュメのファイルを予習すること。(40分)

復習時にプリントを再読し、不明な点については、参考文献の学習や次回の講義での質問など、解決に努めること。(40分)

授業後、授業の内容についての感想と疑問を授業感想文として作成すること。(40分)

映画鑑賞文や読書感想文などの課題に取り組むこと。(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

韓国・朝鮮文学に関する基礎知識を習得しているのか、またその知識をもって具体的な例をあげながら韓国・朝鮮文学の特徴と内容を説明することができるかを評価基準とし、以下の割合で総合的に判断する。
・定期試験：40%
・映画鑑賞の感想文：30%（A4の1頁程度ｘ3回提出）
・作品の感想文：10%（A4の2頁程度）
・授業への取り組み：20%（授業の内容に対する感想や質問。教員の質問に対する返答。）

◎－－－　テキスト　－－－◎

授業レジュメのファイルを事前に配布する。各自手元に用意した上で（パソコン、タブレット、印刷など）、授業に参加すること。

◎－－－　参考書　－－－◎

李光鎬編、尹相仁・渡辺直紀訳『韓国の近現代文学』（法政大学出版局、2001年）ISBN: 4588080083
野崎充彦『朝鮮の物語』（大修館書店、1998）ISBN: 9784469231427
染谷智幸・鄭炳説編『韓国の古典小説』（ぺりかん社、2008年）ISBN: 9784831512239
申明直・張世眞・権昶奎著、浦川登久恵・野口なごみ訳『韓国文学ノート』（白帝社、2008年）ISBN: 9784891749491
権寧珉編、田尻浩幸訳『韓国近現代文学事典』（明石書店、2012年）ISBN:9784750331683
小倉紀蔵『朝鮮思想全史』（ちくま新書、2017年）ISBN:9784480071040
秋月望監修『韓国映画で学ぶ韓国の社会と歴史』（キネマ旬報ムック、2015年）ISBN:4873768179
斎藤真理子編『韓国・フェミニズム・日本 完全版』（河出書房新社、2019年）ISBN:9784309028378
韓国映像資料院編・桑畑優香訳『韓国映画100選』（クオン、2019年）ISBN：9784904855935
波田野節子・斎藤真理子編著ほか『韓国文学を旅する60章』（明石書店、2020年）ISBN:9784750351070
斎藤真理子『韓国文学の中心にあるもの』（イースト・プレス、2022年) ISBN:978-4781620930

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

・配布されたプリントを毎回すべて持参すること。
・授業中に鑑賞する映画（3本）についての感想文を提出すること（3回）。
・韓国・朝鮮文学（日本語訳）の課題リストから1作品を選んで読んで、その感想文を提出すること。
・毎回、授業前後の指定の締切まで感想や質問などを記入し、FUポータルの課題に提出すること。
・授業の内容や評価方法は状況（例：遠隔授業など）によって変更の可能性がある。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1. オリエンテーション（スタートアップ授業）
2. 韓国・朝鮮の文学とは
3. 韓国・朝鮮の古典文学（1）
4. 韓国・朝鮮の古典文学（2）
5. 古典文学関連映画の鑑賞(1)
6. 古典文学関連映画の鑑賞(2)解説
7. 開化期・植民地期の文学（1）
8. 開化期・植民地期の文学（2）
9. 近代文学関連映画の鑑賞(1)
10. 近代文学関連映画の鑑賞(2)解説
11. 韓国・朝鮮の現代文学（1）
12. 現代文学関連映画の鑑賞(2)
13. 現代文学関連映画の鑑賞(2)解説
14. 韓国・朝鮮の現代文学（3）
15. 全体のまとめ、授業アンケートFURIKAの実施

・時期区分とその内容
①韓国・朝鮮の古典文学：古代～朝鮮時代、例）神話・郷歌・時調・漢詩文・パンソリ・古小説など）
②開化期・植民地期の文学：19世紀末～20世紀半ば、例）新小説・翻訳翻案物・新体詩・代小説・日本語創作など）
③韓国・朝鮮の現代文学：20世紀半ば～現在、例）高度成長期の文学、今日の韓国文学など。

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/nf52j7gchkd47elekk9moyt1zqlenzhf)

福岡大学で考える現代社会（災害から自分や家族を守る）

2025-S000009606-11

重松　幹二、（工）、松井渉（日本気象協会）、高山峯夫（工）、佐藤研一（工）、柴田久（工）、高橋淳夫（読売新聞社）、杉山高志（九州大学）、伊藤豪（商）、岩永和代（医）

期別：後期　　単位数：2　　開講年次：１　　授業の種類：対面授業科目　　授業形態：講義　　実務経験：有り　　科目水準：入門　　試験実施：有り
授業時間割：後期：水・５時限　　試験時間割：2026/01/21　５時限

◎－－－　概要　－－－◎

平成７年の阪神・淡路大震災、平成２３年の東日本大震災、平成２８年の熊本地震、そして令和６年元旦の能登半島地震と、甚大な災害が国内で発生した。一方福岡では、平成１１年および１５年に御笠川氾濫における博多駅周辺の水害、平成１７年には福岡県西方沖地震が発生し、安全と思われていた福岡市内でも日頃から災害に対して高い注意意識が必要であることが明らかとなった。また、将来関東・東海・関西などに就職する学生にとっても、大学で防災・減災に関する知識を身に付けておくことは極めて重要である。
この講義では、防災に関する基礎知識を学ぶことにより、災害から自分や家族を守る術、被害を最小にする準備と対応方法を修得する。特に、
・自助（自分や家族の命はまず自分たちで守らなければならない）
・共助（被災した近所の人を助けることの重要性）
・公助（公的機関による救援行動の大災害時における脆弱さ）
の考え方を柱とし、各トピックスを理解することで、一生涯役に立つ教養を身に付けることができる。
講義は学内の各学部の教員に加え、多方面の外部講師によるオムニバス形式で進められ、文系理系両側面から防災に関する知識を広く得ることに特徴がある。実務経験者の講師として、松井渉は気象予報士であるとともにNHKの気象ニュースキャスターを担当しており、気象予報の仕組みや自然災害全般に関する講義を行う。高橋淳夫は読売新聞社の記者として東日本大震災や原発事故の取材経験があり、報道機関の取材行動や記事のまとめ方、取材を通して得られた災害周辺状況について講義する。また、福岡市消防局の中村翔および福岡市市民局地域防災課の矢野貴広をゲストスピーカーとして呼び、災害に対する行政機関の考え方と市民への期待を講義する。

◎－－－　授業の進行・方法　－－－◎

本授業は講義形式で進め、毎回小テストを課す。

◎－－－　アクティブ・ラーニング　－－－◎

いいえ　/　No

◎－－－　到達目標　－－－◎

自然災害の発生メカニズムと想定される被害、気象予報の仕組みを知ることで警報や注意報などの用語を正しく理解することができる。(DP1-1)(知識・理解)

「自助・共助・公助」の意味とそこで発生しうる問題点、市役所や消防局の事前対策と発災時の行動を理解することで、個人としてより良い対応を考える力を身に付けることができる。(DP1-2)(態度・志向性)

災害発生時の初動およびその後の復旧・復興に必要な行動を理解することで、卒業後にどのような職業に就いても、どのような地域に居ても、防災や減災に対する志向力を身に付けることができる。(DP1-2)(態度・志向性)

防災が闘う最大の敵は自然災害ではなく個人の「正常化の偏見（正常性バイアス）」であることを知り、総合的な知識と想像力、多角的な視野が必要であることを理解することができる。(DP2-1)(知識・理解)

自分や家族のみならず、社会全体の安全に対する高い倫理観を持ち、短期的・長期的な行動に移すことができる。(DP2-2)(態度・志向性)

既存の学問分野や既存の知識にとらわれず、想像力を養うことで、防災や減災には１つの正しい答えはなく、相手の立場を理解してより良い選択を探し出す技能を身に付けることができる。(DP4-1)(技能)

防災や減災に限らず、日ごろから積極的に地域社会に参画・貢献できる人物へと成長することができる。(DP4-2)(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

次の授業のために必要な予習内容を指示するので、90分程度の予習の時間を要する。(90分)

授業終了後に毎回小テストを行うとともに、解答締切後に正答をFU_boxを利用して配布するので、90分程度の復習を行うこと。(90分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

授業終了後、毎回FUポータルを利用した選択問題あるいは記述問題による小テストを実施する。その日の個別の授業内容が理解できたかを評価の基準とする。単に出席しただけでは評価しない。

定期試験では、災害から自分を守る、災害の状況を知る、地域を守る、災害と社会システム、いのちを守る、の各項目の知識およびそれらを統合した知識が得られたかを評価の基準とする。

定期試験(70%)と毎回行う小テスト(30%)を総合して最終成績とする。

◎－－－　テキスト　－－－◎

プリントを配布する。
また、FU_boxに受講者専用のフォルダを設け、手元のスマホを使って授業中でもスライドを閲覧できるようにする。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

緊急時には対策本部や災害現場に出動しなければならない講師が多いため、急な休講や講義順が変更となる場合がある。休講となった場合は補講を行うので、掲示板に注意すること。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1. [防災意識の必要性] 自助・共助・公助（重松）＜スタートアップ授業＞

2. [災害の状況を知る] 気象予報、警報・注意報（松井）

3. [災害から自分を守る] 過去の大震災や風水害からの教訓（高山）

4. [災害から自分を守る] ライフラインの被害想定と断絶時対応（佐藤）

5. [災害の状況を知る］最近の自然災害（福岡県西方沖地震、御笠川）（松井）

6.[災害と社会システム］都市災害、防災計画・技術、災害とインフラ・デザイン（柴田）

7. [災害から自分を守る] 個人の平常時の準備と災害時対応（重松・ゲストスピーカー：中村）

8. [地域を守る] 防災関係機関の対応（重松・ゲストスピーカー：矢野）

9. [地域を守る］地域の防災活動、自主防災組織、消防団活動（重松・ゲストスピーカー：中村）

10. [災害の状況を知る] 災害に対する報道機関の取り組み（高橋）

11. [災害と社会システム］被災社会の多様性（高橋）

12. [いのちを守る］災害心理、被災者の行動意識（杉山）

13. [災害と社会システム］災害と損害保険（伊藤）

14. [いのちを守る] 災害医療、トリアージ、高齢者・乳幼児対応（岩永）

15. [防災活動の必要性] 防災活動の必要性、私達にできること、授業アンケートFURIKAの実施（重松）

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/vmmvovkp0yditruwpq1kr621cig9w525)

地誌学（沿岸域の地誌）

2025-S000009478-01

近藤　祐磨

期別：後期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：無し
授業時間割：後期：木・５時限　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

地誌学は，特定の地域における地域的性格について，地形，気候，土壌，村落，都市，産業，交通などといったさまざまな自然的または人文社会的事象を総合的に考察し明らかにする学問である。地誌学は地理学の基本体系の一つであり，地表における個々の事象の地域差やその要因を明らかにする系統地理学と対をなす。「特定の地域」のスケールの設定の仕方は，東アジア／日本／九州地方／福岡県などのように多様であるが，本授業では「沿岸域」と設定して，その地誌を描く可能性を考えてみたい。その際，教員自身による研究の成果も反映させて，より実感を伴った理解を促す。
地誌学を含む地理学の扱う研究対象や内容は多岐にわたり，全てを本授業で網羅することは困難であるが，地理学の基本的な見方・考え方を修得し，本授業以外の学びや日常生活において，地理学的な好奇心・行動力・考察力を発揮できるようになることを目指す。
本授業は講義形式で行われる。

◎－－－　授業の進行・方法　－－－◎

本授業は，教員が作成した講義資料をもとに講義形式で行います。講義資料は事前にMoodle上で掲載するので，各自でダウンロードまたは印刷して持参してください。

なお，本授業はアクティブ・ラーニング形式には該当しませんが，数々の問いを適宜受講者に対して投げかけます。そのため，受動的ではなく，積極的に思考しながら受講してください。

授業支援と双方向性確保のため，Moodle上に掲示板（フォーラム）を設置します。授業を聞いて考えたことや質問などを自由に投稿してください。

◎－－－　アクティブ・ラーニング　－－－◎

いいえ　/　No

◎－－－　到達目標　－－－◎

地誌学の基礎的な学説・理論を理解し，説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

本講義以外の学びや日常生活において，地理学的な好奇心・行動力・考察力を発揮できる。(DP1-1)(態度・志向性)

多様な考え方・価値観に触れ，地理的な事象を多角的に見ることができる。(DP2-1)(知識・理解)

地域や空間に対する人々の多様な考え方・価値観を整理したうえで，自らの考えや立ち位置を表現することができる。(DP2-2)(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

【予習】初回に挙げた文献を読んでおくこと。(60分)

【復習】その回に別途挙げた文献を読んでおくこと。また，授業で学んだ理論や事例について，各自追加で調べて，知見を深掘りしたり広げたりしておくこと。(120分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

評価基準：授業内容に基づく地誌学の見方・考え方や基本的な学説を理解できているか，そしてその学説について考察して自分の言葉で表現できるかを，授業内に実施する２回の振り返りの試験で評価するほか，授業内容に関する小レポート課題で評価します。

評価方法：授業内試験（前半45%＋後半45%）と小レポート課題（10%）。いずれもMoodle上で実施します。
加えて，掲示板（フォーラム）に書き込んだ内容のうち，特に授業への貢献度が高いものについては，上記の合計点に上限10点で加算します。

※本授業は定期試験を実施しないため，再試験を受験することができません。

◎－－－　テキスト　－－－◎

使用しません。配布資料をMoodle上にアップロードします。各自でダウンロードまたは印刷して持参してください。

◎－－－　参考書　－－－◎

みわたす・つなげる地誌学　ISBN 9784772281225
その他は適宜指示します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

授業内でMoodleを使用するため，ノートPCまたはタブレット端末，スマートフォンの持参が必要です。

履修にあたり，予備知識は特に要しませんが，一斉型の講義形式ながらも，思考や自学を促す場面を多く設定しています。人数の多い講義ですが，能動的・積極的な態度で受講してください。
日常のさまざまな場面が地理学的な考察につながります。講義内容を日常生活のあらゆる場面と関連させ，興味のあることを自ら深めるようにしてください。

履修にあたって合理的配慮が必要な場合は，あらかじめ障がい学生支援センターに相談・申請してください。

※出席登録後の退室や代理出席登録（いわゆる「ピ逃げ」や代返）は実態なき出席であり，出席に関する公的記録を欺く重大な不正行為です。試験やレポートなどにあたって生成AIを利用または大きく依拠することも重大な不正行為です。厳正に対応します。

◎－－－　授業計画　－－－◎

①　オリエンテーションと本講義の理念（スタートアップ授業）
②　地誌学の位置づけ
③　沿岸域の地形
④　沿岸域の気候
⑤　沿岸域における農業
⑥　沿岸域における漁業
⑦　沿岸域における工業
⑧　前半の振り返り（試験と解説）
⑨　沿岸域における村落と都市
⑩　沿岸域における自然災害
⑪　沿岸域の防災・減災
⑫　海岸マツ林で考える地誌1
⑬　海岸マツ林で考える地誌2
⑭　海岸マツ林で考える地誌3
⑮　後半の振り返り（試験と解説）・授業アンケートFURIKAの実施

内容は進度などにより変更する場合があります

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/ti1st6szcqjd4kax1vak1hxn95wl7ru9)

福岡大学で考える現代社会（アントレプレナーシップを学ぶ）

2025-S000009606-09

飛田　努

期別：後期　　単位数：2　　開講年次：１　　授業の種類：対面授業科目　　授業形態：講義　　実務経験：無し　　科目水準：入門　　試験実施：有り
授業時間割：後期：金・２時限　　試験時間割：2026/01/21　５時限

◎－－－　概要　－－－◎

本講義は，アントレプレナーシップ（企業家精神）と呼ばれる考え方を身につけることで，不確実な将来に向けて今どのようにして意思決定を行うか，リスクに対してどのように向き合うか，他者と協同（コラボレーション）しながら何かを形にしていくこと，リーダーシップは生まれ持ったものではなく，あとから身につけることができるものだといったようなことを学ぶ。そして，それが事業を行うこと，仕事をすることにつながっていくことを身につけることを目標とする。特に，「失敗」が怖い人にとっては，大学生のうちに小さな失敗を繰り返し経験しておくことで，万が一失敗したとしてもどのように対処すれば良いのかを学ぶことができる。

そこで本講義では，受講生が日頃感じている課題を「ビジネスを通じて解決する」ことを目指して，擬似的に事業案（ビジネスアイデア）を作ることを具体的な最終ゴールに定めている。もちろん，課題がなくても良い。とりあえず「起業」だったり，「なにかに挑戦してみたい」という興味関心がある学生であれば良い。講義を受講する学生たちと話をし，グループワークを通じて，「自分にもなにかできるのではないか」と感じてもらえれば，それは講義目標の達成になる。

また，講義では起業家・実務家による講演を通じて，「新しい事業を創造する」ことの面白さ，魅力，難しさ，楽しさを知る機会を作る予定である。大学で学んだ専門性をどうやって社会人として生かしていくかを学ぶヒントを得られるような講義にしていきたい。

※これまであった事業案
女子中高生向けの下着（女性向け），わら半紙用の修正テープ，左利き用の筆ペン，女子大生向けの化粧品開発，地域交通の課題（特にお年寄りの移動），孤食（ぼっち飯）問題など多岐にわたります。

◎－－－　授業の進行・方法　－－－◎

本講義は講義形式をベースとしながら，課題を解決する事業案を創るワークショップも併用して実施します。具体的には受講者で3-6人程度のグループを作り，グループワークを通じて新たな事業案を創出していきます。そのために必要な知識や理論を講義で補足していきます。

◎－－－　アクティブ・ラーニング　－－－◎

はい　/　Yes

◎－－－　到達目標　－－－◎

アントレプレナーシップを学習することを通じて，卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につける。(DP1-2)(知識・理解)

新規事業の立案など課題解決を行うため，さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる。(DP2-1)(技能)

新規事業立案のリサーチを行うことなどを通じて，さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる。(DP2-2)(態度・志向性)

講義やグループワークを通じて身につけた知識やスキルを相互に関連づけ，さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる。(DP4-1)(技能)

新規事業を立案するワークショップを通じて，チーム・地域・社会に主体的に関わり，人々の間をつないで成長に貢献することができる。(DP4-2)(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

講義の事前予習として，テキストの指定箇所を予め読み，理解できていることと理解できていないことを峻別しておく。(60分)

課題発表等がある場合には，事前にレジュメ，報告資料等を作成し，端的に発表できるように準備を行う。(60分)

講義の復習として，講義内でのディスカッション等をふりかえり，どのような学びを得たのか，現在の課題等を認識できるようにする。(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

定期試験による評価50%，グループ内での発言や他のメンバーのサポートなど目に見える形での学びの貢献20%，中間・最終プレゼンテーション30%。

試験は，学生がワークショップにおいて各自が作成した社会課題を解決する事業案をベースに執筆したものを評価します。中間・最終プレゼンテーションは担当教員から指定されたプレゼンテーション内容に基づき，講義内で説明する評価基準をベースに評価します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

特に指定しませんが，講義やグループワークの途中に下記の参考書を参考に議論をすることはあり得ます。

◎－－－　参考書　－－－◎

山川恭弘（2020）『全米ナンバーワンビジネススクールで教える起業家の思考と実践術: あなたも世界を変える起業家になる』東洋経済新報社　ISBN 978-4492534229
馬田隆明（2022）『解像度を上げる――曖昧な思考を明晰にする「深さ・広さ・構造・時間」の４視点と行動法』英治出版　ISBN 978-4862763181

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

座学＋グループワークを中心とした講義です。また，社会課題を解決できる事業案を作ることが講義の最終目標ですので，（なんでも良いので）課題意識を持って授業に取り組んでください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

第1回　講義ガイダンス（スタートアップ授業として行います）
第2回　アントレプレナーシップとコレクティブ・ジーニアス
・本講義を貫く大きなテーマである「アントレプレナーシップ（企業家精神）」と「コレクティブ・ジーニアス（集合天才）」について講義します。
第3回　リスクと不確実性を正しく認識する
・企業家の活動様式に見られる大きな特徴は，事業機会をいかに見出し，リスクと不確実性を考慮しながら事業を構築していくことにあります。この理論について解説します。
第4回　実務家・企業家による講演（1）
・企業家がいかにビジネスを興すという生き方を選んだのかについて，生の声をお聞きして学習します。
第5回　リーダーシップ
・チームを導くリーダーシップという視点だけでなく，自分がいかにチームに貢献できるかという視点の重要性について講義します。
第6回　事業機会の探索
・事業機会をいかに見出すか。その方法論について議論します。この回以降，グループワークが中心になります。
第7回　課題の探索
・機会という抽象的な概念をより具体的な課題に変換していきます。
第8回　課題のリサーチ
・課題がどのような構造になっているのかを明らかにするため，調査を行います。インタビューやアンケートなど，潜在的な顧客に対する調査を行う方法を学習します。
第9回　事業案の発表（1）
・中間報告的にここまでのグループワークで見出した事業アイデアについて発表します。
第10回　優良企業のビジネスモデルを分析する
・自らのビジネスプランを洗練させるため，優良企業がどのようにして事業を構築させているのかを説明していきます。
第11回　顧客ニーズの把握
・ある程度固まったビジネスモデルをベースに顧客が何を望んでいるのかを調査します。
第12回　実務家・起業家による講演（2）
・企業家がいかにビジネスを興すという生き方を選んだのかについて，生の声をお聞きして学習します。
第13回　事業案のブラッシュアップ（1）
・グループワークを中心に最終報告に向けた準備を進めていきます。
第14回　事業案のブラッシュアップ（2）
・グループワークを中心に最終報告に向けた準備を進めていきます。
・FURIKA実施予定
第15回　事業案の発表（2）
・最終報告としてグループごとにビジネスモデルについて報告をします。

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/gdpgjief9zkosrj53f9tn98s2tcf39k9)

地理学Ｂ（人間活動と自然・環境との関わり）

2025-S000009465-04

近藤　祐磨

期別：後期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：無し
授業時間割：後期：金・５時限　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

地理学は，地域差を追究する学問であり，「空間」の科学である。地理学という学問分野は，専門性と同時に，他の学問分野との関わりや対話を経ながら発展するという学際性・総合性もあわせもつ。本授業では，日々の暮らしやその延長線上にある具体的な事象・現象を，地理学的な視点に立ってとらえるとどのように位置づけられるかを解説する。具体的には，衣食住や，暮らしを彩るアートなどのトピックスを挙げる。さらに，地理学の大きなテーマである「自然と人間の関係」について，事例を交えながら多角的に解説する。その際，教員自身による研究の成果も反映させて，より実感を伴った理解を促す。
地理学の扱う研究対象や内容は多岐にわたり，全てを本授業で網羅することは困難であるが，地理学の基本的な見方・考え方を修得し，本授業以外の学びや日常生活において，地理学的な好奇心・行動力・考察力を発揮できるようになることを目指す。
本授業は講義形式で行われる。

◎－－－　授業の進行・方法　－－－◎

本授業は，教員が作成した講義資料をもとに講義形式で行います。講義資料は事前にMoodle上で掲載するので，各自でダウンロードまたは印刷して持参してください。

なお，本授業はアクティブ・ラーニング形式には該当しませんが，数々の問いを適宜受講者に対して投げかけます。そのため，受動的ではなく，積極的に思考しながら受講してください。

授業支援と双方向性確保のため，Moodle上に掲示板（フォーラム）を設置します。授業を聞いて考えたことや質問などを自由に投稿してください。

◎－－－　アクティブ・ラーニング　－－－◎

いいえ　/　No

◎－－－　到達目標　－－－◎

地理学の基礎的な学説・理論を理解し，説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

本講義以外の学びや日常生活において，地理学的な好奇心・行動力・考察力を発揮できる。(DP1-1)(態度・志向性)

多様な考え方・価値観に触れ，地理的な事象を多角的に見ることができる。(DP2-1)(知識・理解)

地域や空間に対する人々の多様な考え方・価値観を整理したうえで，自らの考えや立ち位置を表現することができる。(DP2-2)(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

【予習】初回に挙げた文献を読んでおくこと。(60分)

【復習】その回に別途挙げた文献を読んでおくこと。また，授業で学んだ理論や事例について，各自追加で調べて，知見を深掘りしたり広げたりしておくこと。(120分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

評価基準：授業内容に基づく地理学の見方・考え方や基本的な学説を理解できているか，そしてその学説について考察して自分の言葉で表現できるかを，授業内に実施する２回の授業内試験で評価します。

評価方法：授業内試験（前半50%＋後半50%）。Moodle上で実施します。
加えて，掲示板（フォーラム）に書き込んだ内容のうち，特に授業への貢献度が高いものについては，上記の合計点に上限10点で加算します。

※本授業は定期試験を実施しないため，再試験を受験することができません。

◎－－－　テキスト　－－－◎

使用しません。配布資料をMoodle上にアップロードします。各自でダウンロードまたは印刷して持参してください。

◎－－－　参考書　－－－◎

はじめて地理学　ISBN 9784860645298
あれもこれも地理学　ISBN 9784860646080
みわたす・つなげる人文地理学　ISBN 9784772281218
その他は適宜指示します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

授業内でMoodleを使用するため，ノートPCまたはタブレット端末，スマートフォンの持参が必要です。

履修にあたり，予備知識は特に要しませんが，一斉型の講義形式ながらも，思考や自学を促す場面を多く設定しています。人数の多い講義ですが，能動的・積極的な態度で受講してください。
日常のさまざまな場面が地理学的な考察につながります。講義内容を日常生活のあらゆる場面と関連させ，興味のあることを自ら深めるようにしてください。

履修にあたって合理的配慮が必要な場合は，あらかじめ障がい学生支援センターに相談・申請してください。

※出席登録後の退室や代理出席登録（いわゆる「ピ逃げ」や代返）は実態なき出席であり，出席に関する公的記録を欺く重大な不正行為です。試験やレポートなどにあたって生成AIを利用または大きく依拠することも重大な不正行為です。厳正に対応します。

◎－－－　授業計画　－－－◎

①　オリエンテーションと本講義の理念（スタートアップ授業）
②　地理学の基礎
③　「衣」の地理学
④　「食」の地理学
⑤　「住」の地理学
⑥　地域におけるアート1
⑦　地域におけるアート2
⑧　地域におけるアート3
⑨　前半の振り返り（試験と解説）
⑩　動物と人間の関係1
⑪　動物と人間の関係2
⑫　植物と人間の関係1
⑬　植物と人間の関係2
⑭　地域環境の保全
⑮　後半の振り返り（試験と解説）・授業アンケートFURIKAの実施

内容は進度などにより変更する場合があります

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/yi5rf9d2uxn73qqv9lokh1yj8v8dif4r)

ドイツ語ＩＢ「LC・LH・G全」

2025-SJ00009653-01

片岡　宜行

期別：通年　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：無し
授業時間割：通年：金・５時限　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

この授業では、ドイツ語の基礎的な文法を学びながら聞き取りと会話の練習を行い、ドイツ語で簡単な会話ができるようになることをめざします。易しい文から少しずつ学んでいくので、英語に苦手意識がある人も不安に思う必要はありません。異なる文化に属する人たちと心を通わせ、異文化を理解するには、互いの言葉を学ぶことが必要不可欠です。しっかり勉強して、ぜひ旅先で学んだ表現を使ってみましょう。

外国語の運用力を身につけることは、言葉への理解を深める出発点にもなります。ドイツ語は英語ととても近い関係にある言語で、ドイツ語を学ぶことで英語の特徴がよく見えてきます。また、母語を再認識し、母語の運用力を高めるという効果もあります。さらに、ドイツ語学習を通して新しい知識や技能を着実に習得するスキルを身につけておけば、将来どんな場面でも役に立ちます。

この授業では、ドイツに関わる様々なテーマについて簡単な調査を行い発表してもらい、討論を行うことも予定しています。発表や討論は、教科書各課の「プロジェクト活動（Projektarbeit）」を扱う際に行いますが、テーマは受講者の皆さんの関心に基づいて選択することもあります。授業後には発表と討論の成果を簡単にまとめてもらいます。受講者相互で発表しあい、楽しく知識を深めていきましょう。

◎－－－　授業の進行・方法　－－－◎

この授業は、知識の習得を授業前に済ませ、その知識を用いた活動（会話練習など）を授業時に行う反転授業の形で行います。また、発表や討論を通じて受講者がともに学ぶ機会を設けます。

◎－－－　アクティブ・ラーニング　－－－◎

はい　/　Yes

◎－－－　到達目標　－－－◎

(1) 学んだドイツ語の知識を活用し、簡単な聞き取りと会話ができる(DP1-2)(技能)

(2) 新しい知識や技能を積極的に習得する姿勢を持っている(DP1-2)(態度・志向性)

(3) ドイツ語圏の文化・社会に関する特定のテーマについて説明できる(DP2-2)(知識・理解)

(4) 発表や討論に積極的に取り組み、共同での学習に貢献することができる(DP4-2)(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習：教科書の文章を読み、文章中の語句の意味を調べる。また、発表を行う授業の前にはその準備を行う。(45分)

復習：授業で学んだ表現を繰り返し口頭で練習し、知識を定着させる。また、発表と討論を行った際には、その成果をまとめる。(45分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

本授業は、各到達目標の達成度を基準として、下記の方法と割合により成績評価します。
授業期間内テスト：50%（到達目標：１、２）
平常点（予習・復習への取り組み、授業での発表や討論への積極的な参加）：50%（到達目標：１、２、３、４）
このクラスは定期試験期間中に試験を実施しません。よって再試験も実施しませんので注意してください。

◎－－－　テキスト　－－－◎

[Title]『ドイツ語の時間〈わくわくライプツィヒ〉』
[Author(s)] 清野智昭
[Publisher] 朝日出版社
[ISBN] 978-4-255-25460-9
※「ドイツ語IA」と共通

教科書のサンプル動画はこちら

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

段階的に学習するため、授業に出席することが重要です。また、授業時間外の学習に着実に取り組んでください。
※辞書を購入する必要はありません。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1. イントロダクション（スタートアップ授業）
2. あいさつ表現など
3. 第１課 場面１（ライプツィヒ中央駅）
4. 第１課 場面２（まだライプツィヒ中央駅）
5. 第１課 プロジェクト活動（ヨーロッパの都市）
6. 第２課 場面１（まだまだライプツィヒ中央駅）
7. 第２課 場面２（シューベルト家）
8. 第２課 プロジェクト活動（部屋の名称）
9. 第３課 場面１（市場で）
10. 第３課 場面２（焼きソーセージ・インビスの前で）
11. 第３課 プロジェクト活動（レシピを読む）
12. 第４課 場面１（私の日常）
13. 第４課 場面２（ローゼンタールでのジョギング）
14. 第４課 プロジェクト活動（天気）
15. 授業期間内テスト１
16. 前期の復習（中間フォローアップ授業）
17. 第５課 場面１（動物園で）
18. 第５課 場面２（学生食堂で）
19. 第５課 プロジェクト活動（動物園）
20. 第６課 場面１（諸国民戦争記念碑）
21. 第６課 場面２（診療所で）
22. 第７課 場面１（ブティックで）
23. 第７課 場面２（アウアーバッハス・ケラー）
24. 第７課 プロジェクト活動（モードと衣料）
25. 第８課 場面１（ワインテイスティング）
26. 第８課 場面２（中庭で）
27. 第９課 場面１（トーマス教会で）
28. 第９課 場面２（旧国家保安省博物館前）
29. 第９課 プロジェクト活動（ドイツの歴史）
30. 授業期間内テスト２、授業アンケートFURIKA実施

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/5kgeh5r9bgaotrnwhktsxzwzbaj6towx)